

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

C 定型・維持管理型 No. 1004004

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名 ホーム・シア・リス	その他施設改善	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設整備課
		(連絡先)	212-8500
		(評価票作成者)	施設整備課長 森田 弘之

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	事務事業の内容
65,861	103,914	現状のまま継続	82,643	環境施設（各クリーンセンター、まち美化事務所、余熱利用施設等）の建築物及び建築設備に係る維持管理並びに改修を行うことにより、施設の機能維持又は改善を図る。
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：(株) みやこ設備設計等 委託内容：東余熱利用センター今後のあり方に関する調査検討及び公共建築物法定点検業務等		
	☒ 部分委託			
	☐ 部分補助等			
	☐ 全部委託			
	☐ 全部補助等			
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	建築基準法 電気事業法		事務事業の性格	☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業
			会計区分	☒ 一般会計 ☐ 特別会計

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	81,592	35,407	65,861	103,914	82,643
		需用費（修繕費等）	20,795	13,928	13,552	14,080	17,030
		工事請負費	45,239	18,749	46,849	74,000	55,500
		その他（事務費等）	12,365				5,513
	①'	委託料 (調査検討委託等)	3,193	2,730	5,460	15,834	4,600
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)	3.9%	7.7%	8.3%	15.2%	5.6%
	③	人件費（24年度は見込） (千円)	31,696	31,318	51,226	51,226	61,557
		職員(課長級) (人)	0.20	0.20	0.56	0.56	0.63
		職員(課長補佐級、係長級) (人)	1.00	1.00	1.54	1.54	2.08
		職員(係員) (人)	2.20	2.20	3.55	3.55	4.04
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費 (①+③) (千円)	113,288	66,725	117,087	155,140	144,200
	⑤	特定財源（市税等の一般財源以外） (千円)					34,000
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等) (千円)					
		その他（市債） (千円)					34,000
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)	113,288	66,725	117,087	155,140	110,200
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度
(平成22年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名

その他施設改善

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度	
	①	改修施設数		施設	8	2	3
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）		千円	113,288	66,725	117,087
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位	14,161,001	33,362,283	39,028,923
	④	単位当たり経費変動率				+135.6%	+17.0%
				評価	かなり悪くなった	かなり悪くなった	
分 析	(コスト変動の理由等)						
	平成 2 1 年度と比べ、平成 2 2 年度の経費が増加したため効率性が悪くなった。 施設の老朽化の程度に応じて工事を実施するため、毎年度工事に要する経費が同等にはならず、22年度は改修を行った施設のうち生活環境美化センターにおいて、工事仮設費等の効率性を踏まえ、屋上防水と外壁改修を同時に実施した結果、評価が悪くなった。評価指標の見直しも検討したが、改修工事や修繕業務では、工事の規模や種類が様々で、事業の効率性を一律に数値により年度比較することは困難である。						
B 市民満足度	<調査の有無>		<調査方法>		<調査時期>		
	□ 有 □ 無 ■ 該当しない						
	(調査結果、現状分析等)						
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	<現状分析、今後の方針等>						
	□ 環境 ■ 関連 □ 一般		機器を改修する際にはエネルギー転換効率の高い機種を選定する。また、使用する材料は揮発性有機化合物の放散が少ない、環境に配慮した製品を選定する。				

平成23年度の実施状況

平成24年1月現在、改修工事(工事請負費)は2施設(工事契約5件)について工事施工中、さらにその内1施設について別工事(工事契約2件)の契約準備中である。委託業務(委託料)については、2件が業務継続中で1件が契約準備中である。修繕業務(需用費)については継続中である。

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)

施設の長寿命化を図るため、適正な維持管理に努め、ライフサイクルコストの低減化をはかっていく。また、施設の改修では、その施設の活用方針を見定め、効率的な経費の執行に努める。